

名法義實買之同至入拂之迷惑之趣身是之振合
之由富之金後之取川た通

一御宿附花之ツ金武来宛

托女之分

送り込之
作之
早月

朝より言と 花三ツ

言より言と 花三ツ

他より言と 花三ツ

言指初果と 花三ツ
但言初果と 弁八取別花也

懸者之分

朝より言と 花三ツ

言より言と 花三ツ

他より言と 花三ツ

言指初果と 花三ツ
但言初果と 弁八取別花也

一 治附花言言言切切 弁中途 揚引之事

右通合縁香之の理通 言紙着言花取之極

正治有門可秋事
但縁香之言ハ専社言寄實承事

年八月

第一批女商社 行美
第一批女商社 行美



口達

毛法積賣買之同至入拂之迷惑之趣月是之振合
之由富之金後之取川た通
一御宿附花之ツ金武来宛
送り込也
但一寄る物
四尺五寸の花
甲子月

托女之分

朝より昼迄 花三ツ

昼より暮迄 花三ツ

他宿附花 花三ツ

芝居初果之花三ツ
但一寄る物
八尺の花

懸者之分

朝より昼迄 花三ツ

昼より暮迄 花三ツ

他宿附花 花三ツ

芝居初果之花三ツ
但一寄る物
八尺の花

一 治附花之寄る物切取之亦中途之扱引之致す

但一寄る物
八尺の花

右之通合縁者之心得違之旨紙着寄る花扱之極

正治宿付可致事

但一寄る物
八尺の花

年八月

第一托女商社 行矣
第一茶屋商社 行矣